

緑の葉かい、 和の床に生くる

和束町税住民課長

山嶋 修 氏



「長野県のスキー場で短大生の嫁さんと知り合い、ひと目ぼれしたのが『縁』の始まりなんです」。奥さんとの『運命的な出会い』から話が始まった。

大学受験に失敗し予備校に通うため秋田県湯沢市から東京に出てきたが、いろんな職種のアルバイトをしているうちに、仕事の熱心さが買われ内装の設計会社を任せられることになつたという。バブルが追い風となり仕事も順調だった29歳の頃だった。

ひと目ぼれ 結婚の条件は?

「嫁さんの実家が和束町で茶農家だったんです。(婿)養子になり茶農家を継ぐというのが結婚の条件でした。親戚から『農業なんかできっこない』と反対され、駆け落ちみたいなこともしたんですが、なんとか許してもらいました」。当初は茶農家を手伝っていたが、たまたま募集があり和束町職員になつた。それから30年になる。

今春、税住民課長になつた。「戸籍や税務、すべてが初めてなんです。ですんで頭の中は空っぽ。ベテランの職員さんに助けてもらつているのが現状です」。「仕事に苦戦してます」

と告白しながらも大らかな人柄で課内をまとめる。「これまで建設事業の現場が長く、業者さんとの対応で神経を使つたのか、十二指腸潰瘍で3~4回入院したことがあるんです。それがきっかけとなり『ストレスをためない』のが私の健康法になりました」と笑う。

愛車のハーレーでストレス撃退

「現在のストレス撃退法ですか? 休みの日に愛車のハーレーで走ることです。2年前に奥さんも大型免許をとつたので二人でツーリングを楽しんでいます。格好いいでしよう」。スマホに収めた二人の写真を見せながら「いまも恋愛中みたいなものです」。ストレートな愛情表現にも嫌味がない。うらやましい限りです。



「和束へ来た時はあらゆる自信が打ち砕かれましたが、ようやく自分なりに和束の人間やと思えるようになりました」。取材が終わり、職員さんが入れてくれた100%和束茶といふお茶を一緒にいただいた。「うまいね。和束はなんといってもお茶です」。お茶のPRは忘れない。家族愛はもちろん、地元愛も搖るぎない。